

障害者生活支援シンポジウム～高齢障害者のしごととくらしを考える～

社会福祉法人 明光会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180 番地

助成事業の概要

法人相談部門である障害者就業・生活支援センターさつきやサポートセンターコンパス北斗で相談を受けていると 65 歳近くになり今後どうしたらいいのか（続けて働きたいという本人の希望や能力的に課題があるが雇用を継続するのかという企業の相談）という相談が目立ってきた。おりしも令和 6 年 4 月からは希望者には 65 歳までの雇用が義務付けられるようになる。これは障害者でも同様であるが加齢による能力低下は健常者よりも顕著であり単純に雇用延長とはいかないのではないかと。健常者とは違った課題も多いと考えられる。今後この問題について相談支援部門でどう対応していけばいいのか考える必要が出てきた。そこで令和 5 年 11 月に障害者生活支援シンポジウムを開催し高齢障害者のしごととくらしを考えることとした。

シンポジウムは、静岡市で以前から障害者雇用に取り組んでおりしかも勤続年数が長いと評価されている金沢紙工の金澤社長の講演・明光会相談部門の相談支援専門員と金澤社長の対談、地域における高齢障害者の雇用状況アンケート報告、同じく相談担当者による「模擬サービス担当者会議」の三部構成とした。

開催場所はグランシップとした。講演では金沢紙工で年齢が高くなった社員（障害者）への対応のしかた、障害者採用の理念や重視していること、勤続年数が長いことの原因などをお話いただく。対談では講演内容への質問などを中心に掘り下げ、「模擬サービス担当者会議」では高齢障害者

の仕事についての現状、課題などを共有し解決策を提案する。

事業の成果

令和 5 年 11 月 29 日、グランシップ 10 階 1002 会議室にて開催した。当日は事前に参加申し込みを受けていたがインフルエンザやコロナの感染が静岡市内でも流行していたこともあり体調不良や家族の発症のため欠席された方が多かったのは残念だった。

第 1 部の講演では講師の金沢紙工の金澤社長が障害のある社員さんと健常者の社員さんが一緒に働く現場の写真などを織り交ぜながら、障害者雇用のきっかけ、現在の取り組み状況、や会社としての考え方についてお話しされた。今は特別支援学校の卒業生など知的障害の社員も採用されているがもともとは静岡市にある「養心荘」（現：こころの医療センター）の入院患者さんの社会復帰のための職業訓練の場としての役割があったところだ。現社長の父親である先代は「人手不足の時代に社員がなかなか来てくれず困っていたうちの会社を助けてくれた、今あるのはその人たちのおかげだ」と言ってその後も障害者雇用を進めていたことを知ることができた。

金沢紙工は紙加工の会社で小さな町工場で主にプラモデルの箱を作っている。プラモデルは静岡市の代表的な「特産品」だがパッケージは多くの工程によって作られる。障害特性によっては難しい工程もあるので採用してからその特性に合った作業を提供しとことんその作業ができるように

しているということだった。規模が小さいとどうしてもマルチに仕事をさせようとしてうまくいかないケースがある。その点、金沢紙工では長年の経験もあって仕事とのマッチングがうまくいっているので社員の定着が高く勤続年数が長い人が多いが「その人」をしっかりみているのがその理由だと分かった。当日の参加者には静岡市内の企業の担当者も多くみえたがこの話は今後の障害者採用～定着に大いに役に立ったと後日会社訪問をした障害者就業・生活支援センターさつきの職員から聞いた。日頃は同じ地域にあっても他社の取り組みを聞く機会は多くはないので貴重な話を聞く機会を提供できたものと思っている。

高齢障害者の雇用状況についてはそもそもこのような内容のアンケートはまだ行われていないようで時期が早すぎた感もあったがすぐに課題となるであろう内容なので一定の成果が得られたと思っている。企業だけの問題ではなく地域の高齢者問題としてとらえる必要があると結果を見て感じた。地域で考える問題であるとの前提で行ったのが「模擬サービス担当者会議」である。高齢障害者の雇用や生活を考えるためにはこのような多職種による連携が必要であることを示したものであるが従来の講演会にはない「見せ方」であったので「制度についてよく分かった」「こういうものが重要だと理解できた」などの感想が聞かれたしその後関係機関の話題作りにもなった。

成果の広報・公表

今回は新聞記事にはならなかったがサポートセンターコンパス北斗、障害者就業・生活支援センターさつきの相談業務の中でシンポジウムの内容を紹介したり当日配布した資料をもとに相談を進めたりする機会があり成果の広報をすることに繋がっている。また法人のホームページでも紹介をするようにしている。法人の広報誌にも取り上げられ

るものと考えている。

静岡市障害者自立支援協議会就労支援部会でもこのシンポジウムを紹介しており高齢障害者雇用を地域の今後の課題として位置付けるひとつの理由になっている。

また障害者就業・生活支援センターさつきが参加している静岡県障害者就業・生活支援センター協議会でもさつきの取り組みの事例として報告し高齢障害者の雇用問題が地域に存在していることを取り上げた。このような活動を通してシンポジウムの広報としている。

今後の展開

高齢障害者の雇用については地域において今後大きな課題になってくることが明らかとなった。アンケートの結果を活用して現に企業就労している障害者が 60 歳～ 65 歳の高齢に達した後も生活が維持できるような収入を得られるような雇用環境を作り出すためのしくみを考えなければならない。企業にはいわゆる定年年齢を障害者雇用においても延長を考慮してもらえるように働きかけを行うが一方では能力をどう評価するか、その能力に応じた「働く場所」をどう確保するかなど取り組む必要のあることばかりである。このような課題を取り上げる場所としては静岡市においては障害者自立支援協議会や就労支援部会が考えられるので新年度の取り組みとして提案していく予定である。また静岡市に限った課題ではなく広く県全体に関係する課題であるので県内の 8 つの障害者就業・生活支援センターに担当する各圏域で協議する場を設けてもらうようにセンター長会議や職員研修を通じて働きかけていくようにしたい。